

# 鼎談・キーマンからのメッセージ

# 群馬をICT先進県へ

プログラミング教育が小学校で必修化され、デジタル庁創設やコロナ禍を背景にデジタル化が加速する中、情報通信技術(ICT)を駆使したさまざまな取り組みが進展している。

「群馬をICT先進県へをテーマに、群馬県の宇留賀敬一知事と群馬大の浅尾高行教授、システム開発会社クライムの金井修社長が産学官の立場から語り合った。

## 教育

「日本のデジタル化の遅れが指摘されている。宇留賀 日本は1970年代、80年代に製造業を中心にアナログの世界で世界一になった。その成功体験が強く、その後の産業構造の転換が遅れてしまった。

金井 欧米のシステムはほとんどパッケージソフト、既製品を使っている。例えば、販売管理や生産管理、給料のシステムはパッケージの機能に業務を合わせる。非常に安価で効率的なシステムが導入された。対照的に日本は何でも全てオーダーメイドで作っている。非常に高額になり、中小企業での導入が難しいケースが多く、海外との格差ができてしまった。

浅尾 教育面からすると、デジタル化は理系のイメージが強い。過去の教育でも、コンピュータは理系のおたく分野のように思われていた印象が強かった。しかし、ICTの分野は文系のユーザーが非常に大きい。このICT化の流れの中で、情報を共有することが大事になってくる。ICT人材の不足も課題だ。

金井 日本はエンジニアが30万人不足しているというデータがある。今後、GIGAスクール構想で小中学校や高校にパソコンが配布されると、教育界にもすごいICTシステムが導入されることになる。中小企業のICT化もどんどん進むと、私の肌感覚では10年後に100万人ぐらい不足すると感じている。そこで、優秀なエンジニアがたくさんいるバリエーションからICT人材を受け入れるプロジェクトを進めている。さまざまなハードルがあるが、将来的にはバリエーションに限らず、優秀な外国の方に力を借りて日本のICT化を進められるような環境をつくりたい。

動人という取り組みも始まった。その狙いは、宇留賀 群馬県がこれから目指す人材として、自分で第一歩を踏み出して「始動人」というイメージをつくった。個性を生かした社会をつ

つていきたい。群馬県で一番高い県庁最上階の32階に整備した官民共創スペースのNETSUGEN(ネットスゲン)では年齢や性別、会社組織や業界の壁とか関係なく、みんなで知恵をぶつけ合い、語り合っている。そんな場所にしていきたい。浅尾 素晴らしい。先端技術を使って中高生が課題解決型学習に取り組む「始動人Jr.キャンパス」に私と研究室の大学生も関わってきたが、子

どもたちの自由な発想は刺激になる。これからの群馬県をリードしていくような取り組みになってほしい。金井 ぐんまプログラミングアワード(GPA)も人材育成を目的にしている。群馬大は、この4月から情報学部を新設する。浅尾 まさに情報を扱う人たちが育てていくことを目的とした学部。特徴は二つあり、一つは文理融合。情報を分析して活用するデータサイエンスはあくまでも道義的なもので、いろいろな分野の専門の人たちが使えるようになることが大事。データサイエンスの専門家というよりは、データサイエンスも使えます、というふうな人材を育てる。二つ目の特徴は、PBL(課題解決型学習)。

群馬県副知事

### 宇留賀 敬一氏



うらが・けいいち 1980年、長野県穂高町(現安曇野市)生まれ。2003年に経済産業省に入省、資源エネルギー庁や内閣府地方創生推進室などを経て、19年8月から現職

群馬大教授

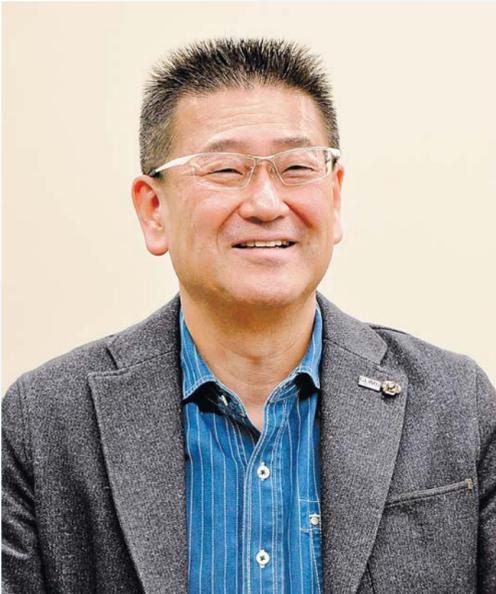
### 浅尾 高行氏



あさお・たかゆき 1957年、兵庫県宝塚市生まれ。84年、群馬大医学部第一外科入局。同大大学院を経て2013年、同大教授。19年4月から同大数理データ科学教育研究センター長

クライム社長

### 金井 修氏



かない・おさむ 1961年、沼田市生まれ。群馬富士通勤務を経て、89年にクライムを設立、社長に就任。金融・行政のシステム開発とM&A(合併・買収)で事業を拡大

## 連携

「ICT企業にとって本県の立地環境の利点は。金井 群馬は災害に強くて自然を生かした電力が豊富で、ICT企業にとってものすごくいい場所。特にデータセンターや研究開発機関を誘致するに非常にいいと思う。仕事をすることで環境がすごく良く、企業を誘致して群馬の子どもたちが将来、群馬で働きたい。この環境をつくりたい。この県談をしていく前橋駅のアクセル前橋に事業所を移したのも、都内の企業の方々に群馬のオフィスイメージしてもらえないかと考え、その旗振りしようと思っっている。大学はこれまで企業と共同研究契約を結んで情報がいけないようにしてきたが、それでは対応できない。オープンイノベーションの時代で、大学が持っている開発技術のノウハウやソフトウェアを共有できるような集合体情報学部と連携しながらつくってきたい。

「始動人」と同じで、その大学版。プログラムを使って問題解決するためには、どういった方法論を使ったらいいかを考える授業を取り入れる。群馬大学の柱の一つにしてきた。

「産学官それぞれの立場から提言を。浅尾 金井さんの話のように、IT業界で働く人にとって、どこで働くか、あるいは意味がなくなると、コロナ禍でそれが明確になった。群馬への移住で重要になってくるのが教育で、「群馬の方が東京の私学よりいい」という状況をつくる必要がある。さらに群馬で働く方が東京よりもいい生活ができるようになる。東京に行かなくてもいい社会をつくるべきだ。

「企業も行政も壁を取り払うことが大事になる。そういう意味で、研究と開発も、教育と同じように壁を取り払って世界に発信できるようにものをつくってほしい。浅尾 アカデミアとして、二つのことをする必要はある。一つは人材育成。もう一つは新しい研究開発で、これは人材育成とかならリンクして大学の中だけで完結するのではなく、もっと広く、まさにデジタル化の時代は企業も行政も壁を取り払うことが大事になる。そういう意味で、研究と開発も、教育と同じように壁を取り払って世界に発信できるようにものをつくってほしい。金井 群馬県をICTの聖地にするという取り組みをすつとやってくる。特に今、前橋市がス

## 挑戦する人材育成を 壁取り払い情報共有 群馬をICT聖地に 金井氏

動画でもご覧いただけます



群馬をICT先進県へ

検索



プログラミングの楽しさを伝えるGPA



4月に開設される群馬大情報学部



県庁最上階に整備されたNETSUGEN

## ぐんまプログラミングアワード (GPA) 2021

- 開催日 8月28日(土)
- 会場 ベイシア文化ホール(前橋市)
- 募集対象 小学生から大学生
- 募集部門 ジュニア(小中学生)、アプリケーション、テクニカル、IoT(新設)
- 募集期間 5月1日(土)~6月18日(金)
- 審査スケジュール 1次審査:6月(書類審査)、2次審査:7月



## プログラミング教育番組「ぐんまプログラミングワールド」(GPW)

動画見てね!

